

1. 大学院としての教員養成に対する理念

本学では、建学の精神である「親鸞聖人の体せられた仏教精神」に基づく“心の教育”と高度な専門的知識の修得を通して学生一人ひとりの資質・能力の開発・向上を目指すことを教育理念としており、教員養成においても、“心の教育”を基礎として、「心豊かでたくましく生きていくことができる子どもを育成する資質・能力を身につけた教員」を高度に養成することを目指しています。

本学における教員養成は、大正7年に京都女子高等女学校が尋常小学校の正教員免許状の授与機関となったことに始まり、以来、教員養成に対する実績を積み上げ、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に多数の教員を送り出しています。

教員養成においてこのような伝統と歴史を有する本学には、専修免許状取得を目指すために入学してくる学生も多く、真に教員になり社会に貢献したいと考える学生が教職課程を履修しています。専修免許状を有する教員として求められる資質・能力を十分に育成し世に送り出すことは、教員を目指して本学に入学してくる学生の期待に応えることになるとともに、教育成果の社会への還元、延いては社会への貢献という観点からもその意義は大きいと認識しています。